

日本史籍講読5－III

科目ナンバリング JPH-409

選択必修 2単位

宮川 麻紀

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、日本古代史の史料を読解できるようになるため、まずはその前提となる漢文法を学ぶ。その上で、奈良時代の歴史書『続日本紀』をテキストとして精読していく。受講者は順番に発表者となり、『続日本紀』の書き下し文と現代語訳、語句・人物説明を書いたプリントを作り、発表する。また、その解釈や背景にある歴史的事項について、発表者以外にも含めて全員で討議する。なお、『続日本紀』以外の様々な飛鳥・奈良・平安時代の史料も紹介し、その場で輪読することができる。

2. 授業の到達目標

- ①古代史料の読解力を習得する。
- ②日本古代史について幅広い知識を会得する。
- ③辞書や参考文献を用いて、自身の力で調べることができるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)書き下し文・現代語訳・語句および人物説明の発表がきちんとできているか 40%(到達目標①～③)
- (2)史料の読解に関する小テスト3回 60%(①と②)

4. 教科書・参考文献

参考文献

青木和夫ら 新日本古典文学大系『続日本紀』 岩波書店、1989年

5. 準備学修の内容

- ・発表者はあらかじめ、『続日本紀』の書き下し文と現代語訳、語句・人物説明を記したプリントを作る。
- ・分からない漢字や熟語は『大漢和辞典』や『日本国語大事典』で、歴史用語の意味や意義は『国史大辞典』で調べておく。
- ・テストに備えて、ノートを見直し復習する。

6. その他履修上の注意事項

日本古代史の基本的な知識は、『日本の時代史』や『大学でまなぶ日本の歴史』(いずれも吉川弘文館)などの通史の本から習得しておいてほしい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | オリエンテーション
・『続日本紀』についての解説
・授業の進め方や評価方法の説明
・『日本の時代史』『大学でまなぶ日本の歴史』から課題を出す |
| 【第2回】 | 漢文の読み方の実践と日本古代史の知識習得
・課題の発表
・漢文の読み方の基本的な事項について、発問と解説
・実際に『続日本紀』を読む |
| 【第3回】 | 続日本紀の発表①
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第4回】 | 続日本紀の発表②
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第5回】 | 続日本紀の発表③
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第6回】 | 続日本紀の発表④
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第7回】 | 小テスト(1) 発表①～④の内容
『出雲国風土記』の輪読 |
| 【第8回】 | 続日本紀の発表⑤
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第9回】 | 続日本紀の発表⑥
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第10回】 | 続日本紀の発表⑦
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第11回】 | 小テスト(2) 発表⑤～⑦の内容
『律令』の輪読 |
| 【第12回】 | 続日本紀の発表⑧
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第13回】 | 続日本紀の発表⑨
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第14回】 | 続日本紀の発表⑩
・漢文の読解、奈良時代史の習得 |
| 【第15回】 | 小テスト(3) 発表⑧～⑩の内容
『類聚三代格』の輪読 |